

## 「情報学」を授業内容とした講義科目における、アクティブラーニングの実践報告

森屋裕治

名古屋女子大学短期大学部

ymoriya@nagoya-wu.ac.jp

筆者らが共同執筆したテキスト「考える情報学」を用いて授業展開を行った。授業では、事例を紹介しつつ、あえて解答を示したり決まった方向への誘導を行わず、学生たちが自分たちで考えディスカッションし、情報学を考える授業を展開した。このテキストの趣旨、ならびに本テキストを活用した、情報学を学ぶための授業展開、アクティブラーニングについて、実践報告する。

### Practice report on active learning in the lecture of "Informatics"

Yuji MORIYA

College of Nagoya Women's University

#### 1. はじめに

筆者らが共同執筆したテキスト「考える情報学」を用いて授業展開を行った。授業では、事例を紹介しつつ、あえて解答を示したり決まった方向への誘導を行わず、学生たちが自分たちで考えディスカッションし、情報学を考える授業を展開した。このテキストの趣旨、ならびに本テキストを活用した、情報学を学ぶための授業展開について、特に数年度の授業実践の試行錯誤から、アクティブラーニングを志向した授業を展開したので、実践報告する。

表 1 テキスト「考える情報学 2.0」目次

1章	情報技術の発展と人類の未来
2章	社会の情報化と著作権保護
3章	個人情報保護とプライバシー
4章	情報の収集と利用
5章	文化・教育の情報化
6章	生活の情報化
7章	表現の情報化
8章	インターネットと政治
9章	インターネットコミュニケーション
10章	多様な情報の蓄積と拡散

#### 2. テキスト「考える情報学」について

本テキストは、期間が半期から通年の、情報学に関する授業の教科書を想定して、共同執筆されたものである。初版後4年間を経過し、執筆者それぞれの授業展開の中で生じた問題点などを踏まえ、一昨年第2版として刊行された。以下に目次(章)を示す。

#### 2.1 刊行の背景、位置づけと特徴

大学における「情報教育」は、より専門性の高いものや実務的なものに変化してきた。それに加え、社会の急速な情報化に対応すべく、情報社会をどうとらえ、どう生きて行くか、といった社会科学の理論科目が増加してきた。本テキストは、大学における「情報社会論」「情報メディア論」等の科目の教科書、または副教材を前提として編集した。特に想定しているのは、各章の「基礎解説」

を学習した後、いくつかの「事例」を選んで、ディスカッションを行うことである。そのため、現実に起こった、なるべく最近の事象を掲げ、議論のための素材として利用しやすくすることに留意している。

## 2.2 構成と学習ポイント、ディスカッションへの誘い

各章は、「基礎解説」といくつかの「事例」とで成り立っている。各「事例」において話し合うべき問題点は必ずしも一つとは限らず、様々な立場から多面的に捉えてディスカッションを展開することを大切にした。授業でのディスカッションは、単一の結論を導き出すことを目的としてはいない。価値観や立場を異にする者どうしが冷静で活発なディスカッションを行う中で、情報社会を主体的に生きるための深い見識を身につけてほしいという願いがある。

## 3. 担当科目「情報と社会」における授業展開

筆者が担当しているのは、短期大学部生活情報コース専門科目「情報と社会」である。この科目は、情報化が、社会や生活にどう関わり、どのような将来像となるかを探求することを目的とする。以下に、この授業の毎回の展開方法を示す。

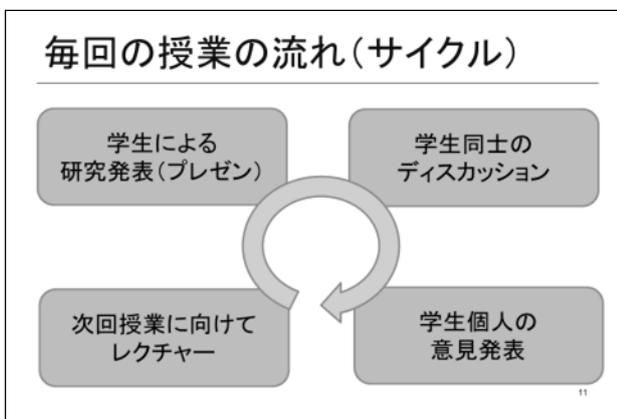


図1 毎回の授業の流れ(サイクル)

## 3.1 研究発表(プレゼン)

まず、前回の授業で行われた「レクチャー」によって一週間に学習した内容をまとめて、プレゼンを行う。時間はおよそ5分間で、数グループに分かれて担当する。最後には、「対立する課題」をディスカッションの題材として提示させる。

## 3.2 ディスカッションと意見発表

数組のプレゼンを聴講したのち、代表的なテーマ:対立する課題 を教員から提示する。学生は、このテーマについて、自分で考え、また友人同士で意見交換し、まとまった考えをクラスの前で発表する。自分の主張や考えとともに、その根拠や想定される課題、また対立する意見に対する自分の考えなどを要約して発表する。

最後に、次回の授業に向けて、研究発表やディスカッションのポイントとなるテーマや事例を紹介し、予習を促し、次回授業に臨むよう説明する。

## 3.3 アクティブラーニングの取り組み

授業において提示されるテーマについてのディスカッションでは、クラスを少人数の小グループに分けて、話し合いを促した。事前に各自が調べてきたテーマに関する事例や見解を基に、相互に意見を出し合い、ディスカッションを深めさせた。最後には、グループにおける結論をまとめさせ、個人の結論との相違も確認をさせた。

## 4. まとめ

授業にて使用しているテキストの方向性とコンセプト、また授業展開の実践例を紹介した。学生たちはよく調べてまとめ、また自分の意見をしっかりと筋道立てて説明できるようになってくる。こうした学生の発言や参加を促すような授業で、より実践的な考え方を養えるとともに、クリティカルシンキングのクセをつけられると考えている。